

## 2012年8月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa高度を見ると、半球規模で波列パターンが卓越し、ヨーロッパ南部、中央アジア付近は正偏差、英国の西海上、中央シベリアは負偏差だった。カムチャツカ半島付近は顕著な正偏差となった。アジアジェットは平年と比べて北偏した。太平洋高気圧の本州付近への張り出しが平年と比べて強く、北～西日本は高温となった。北極域の海水面積は衛星観測史上最少を記録した（宇宙航空研究開発機構）。

熱帯の対流活動は、太平洋西部の北緯20度帯、インド洋西部、カリブ海周辺で平年より活発、インド洋東部付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は月の前半に太平洋東部から大西洋にかけて東進し、下旬にインド洋に達した。太平洋赤道域の対流圏下層では、月の前半は西風偏差、後半は東風偏差が卓越した。対流圏上層では、チベット高気圧は平年より強く、北東への張り出しが明瞭だった。南方振動指数は-0.2だった。

### 世界の天候

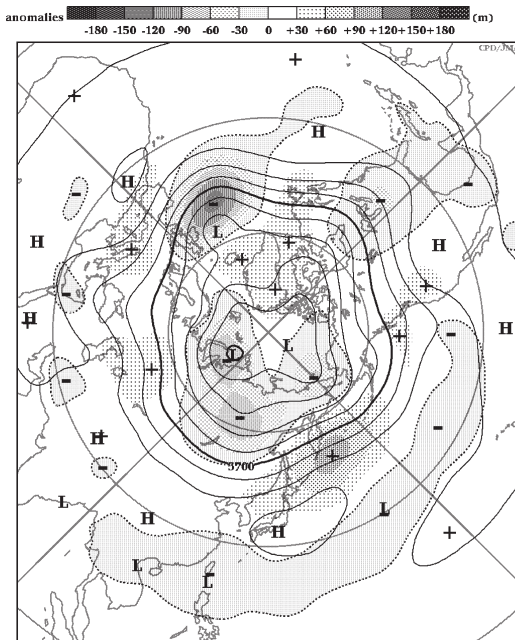
2012年8月の世界の月平均気温偏差は+0.23°Cで、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.63°C/100年である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 台風やモンスーンに伴う活発な対流活動の影響を受け、韓国南部～フィリピン北部で異常多雨となった。
- 地中海周辺で異常高温・異常少雨となった。
- カナダ東部で異常高温となった。

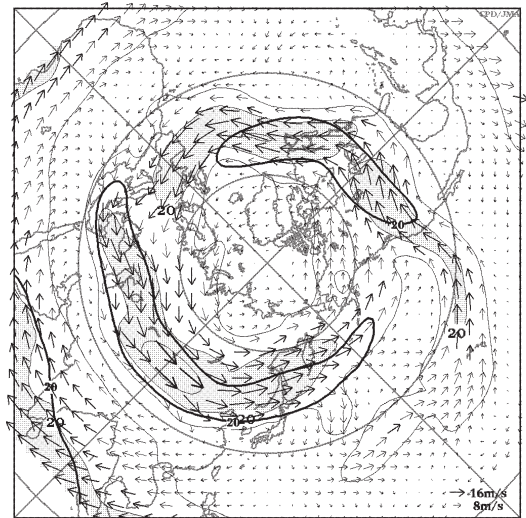
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

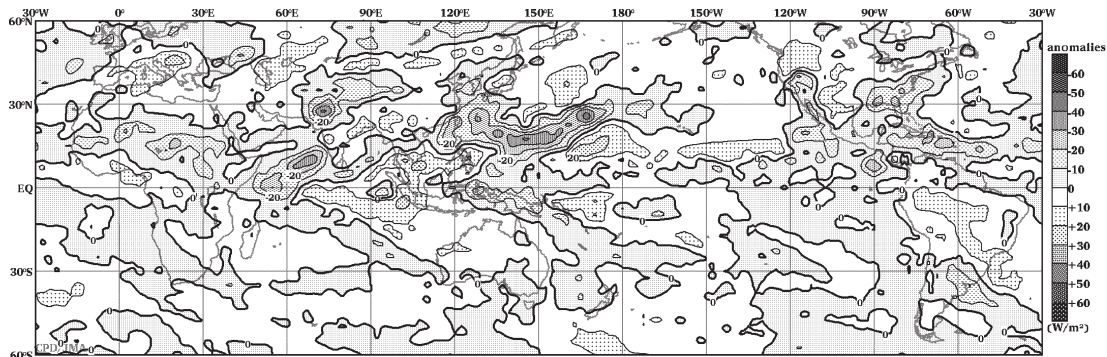
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



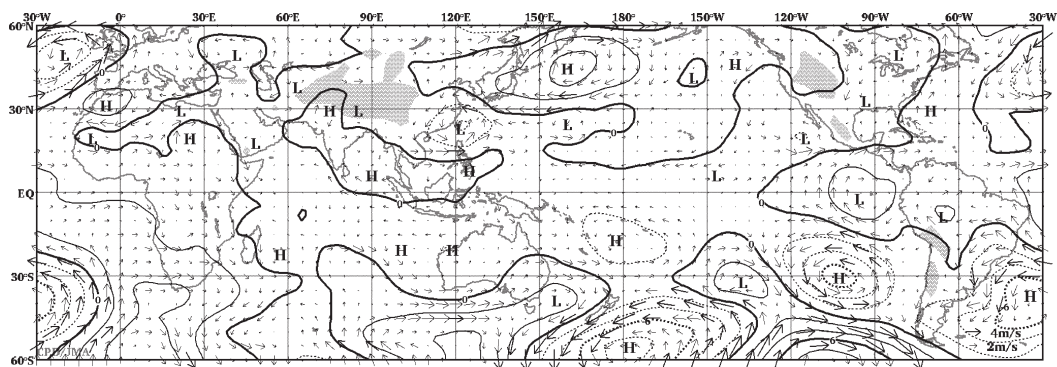
2012年8月の北半球月平均500hPa 高度および年偏差  
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



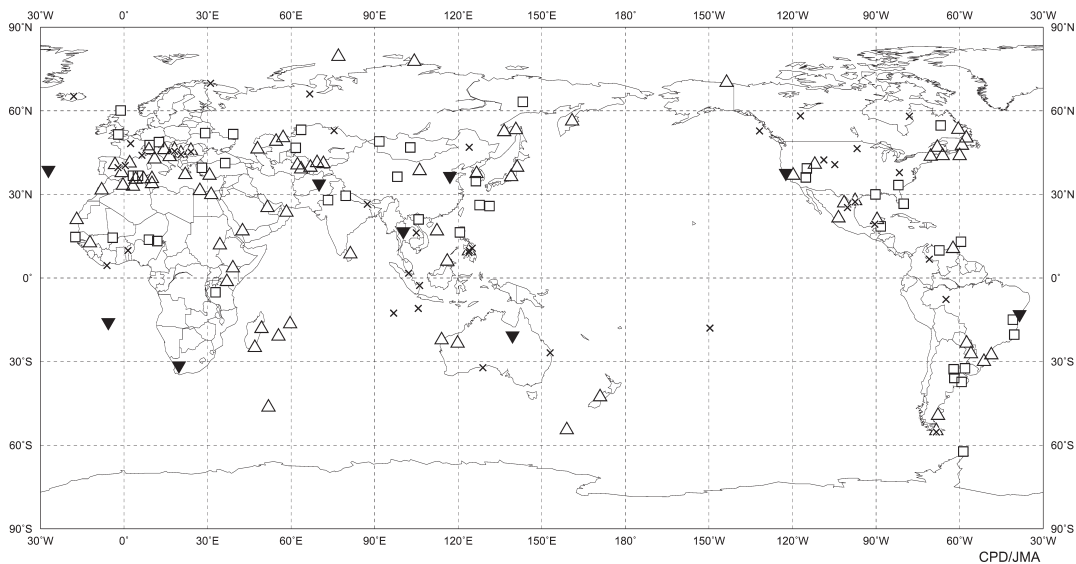
2012年8月の北半球月平均200hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は20m/s。陰影部は20m/s以上。太実線で囲まれた領域は年間の20m/s以上の領域を示す。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2012年8月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は10W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年8月の月平均850hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年のデータから作成。



2012年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。